



最も身近な社会とのつなぎ役

民生委員・児童委員

地域の身近な相談相手として活動しているのが、**民生委員・児童委員**（以下「民生児童委員」と表記）です。コロナ禍での外出自粛で、運動や会話が減り、筋力の低下や認知症の進行、孤立等が問題視されています。それを防ぐため、民生児童委員による定期的な見守り・訪問等が、より重要となっています。

活動の
メイン

訪問で、高齢者の「今」を確認

一人暮らしの高齢者や障害のある人等を定期訪問し、各家庭の現状を把握します。まずは顔見知りになることで、小さなことでも相談につながります。

防犯や健康のお知らせとともに、市が提供するマスク等を配付。地区ごとに工夫を凝らしている（写真は一部地区で配付した祝い箸）▶



会話をきっかけに各サービスを紹介

困りごとから、各種保険・制度等の行政サービスを紹介し、窓口につながります。情報を得る手段が限られる高齢者や困りごとのある人等にとっては、民生児童委員との会話が、支援の窓口につながりになります。

地区社会福祉協議会や企業等と、月に数回「暮らしの相談会」を開く地区も▲

高齢者自身の生活圏で考えるサポート体制

地域の防災活動の一貫として、災害時の要支援者の見守りに協力しています。また、認知症の人が所在不明になった際の対応も行っています。西部の一地区では、家に帰れなくなった奈良市の高齢者が生駒市で見つかった際に、生駒市の団体と連携して連絡会を開く等、生活圏を考慮に入れたサポート体制を整えています。

▶他にも、子育て世帯への訪問や証明事務等、さまざまな活動の中で地域の日常を支えています。

チェック！

民生委員・児童委員とは？



地域住民目線で、福祉に関する生活の困りごとの相談に乗り、専門機関への「つなぎ役」を担います。法律にのっとり、厚生労働大臣から委嘱されたボランティアです（市内に778人）。専門知識・経験は不問ですが、個人情報扱うため**守秘義務**があります。



黒田さん（80歳）
一人暮らしで解決できないことはたくさん。何でも相談でき、とても心強いです。

民生児童委員の中根さん

特殊詐欺への注意喚起や、フレイル予防等の案内をお届けすることも。外出自粛時は、インターホン越しに様子を確認しました。

「ひとりぼっち」をなくす 交流の場づくりも

地域内の各団体と一緒にイベントを企画する地区も。新しいつながりを築きにくい人の孤立を防ぎます。

2年ぶり開催のイベントの様子。450人の幅広い世代が集う場に



インタビュー



市民生児童委員協議会連合会のみなさん

左から、^{くさか}艸香さん、^{おくじょう}中村さん、中井会長、森山さん、奥城さん、楠原さん

人とのつながりやうれしい瞬間を発見できる、見守り活動

民生児童委員というと、仕事が多岐に渡り大変、負担が大きい等のイメージがありますが、それ以上にたくさんのうれしい瞬間に立ち会うことができます。生活の困りごとを解決し笑顔になる姿や、声をかけてくれる人が増え、**私たちも地域とつながり、生き生きとした毎日を実感しています。**

また、一緒に活動する人がそばにいただけで私たちも励みになります。今、ボランティアの「みまもり支援員」等と一緒に活動することもあります。始めやすい活動ですので、少しずつでも個々人と社会をつなぐ輪づくりに興味を持ち、参加してくれたらうれしいです。